

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	こうのすケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4-32-1		
自己評価作成日	平成28年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感のあるイベントや行事、他にも誕生会を行い、フードセラピー等ではおやつ作りを行っている。近隣住民の方から頂いた野菜で昼食の一品としておかず作りをしたり、散歩時等の会話を大事にしたりと、地域との関わりを大事にしている。
身体拘束、虐待防止の意識の向上の為、グループワークの実施、また消防署や近隣の方々との合同避難訓練、夜間通報訓練の実施をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の日々の生活を大切に、常に利用者第一、現場第一の考えのもと、言葉だけではなく、目で確かめ、職員全員が利用者を良く知り、気になることはその場でミニ・カンファレンスを行うなどの対応がとられているほか、「生活の音」や「声」が聞こえる家庭的な環境作りにも努められている。
・ご家族のアンケートでも、「家族と一緒にいるようで、気持ちが落ち着いて暮らしている様子が見えます。ほっとしています」、「本人の意思を尊重して、穏やかに生活出来ているので感謝しています」などのコメントが寄せられ、利用者を良く知り、細やかなケアが行われていることに高い評価が得られている。
・目標達成計画の達成状況については、27年度は評価免除であったが、特に災害対策において、災害発生時のリーダーの養成やその役割の確認などに取り組み、成果が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考え「笑顔で生活・安心、安全な環境」を理念とし、住み慣れた地域で1人1人が安心して生活して頂けるようにしている	利用者の安心と安全な暮らしを尊重し、笑顔のある生活が送られるよう、理念の実践に努められている。新しい職員には言葉だけでなく、現場での指導を重視し、利用者の動きや気持ちに沿ったケアの周知が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域の行事にも参加をしたり施設へ招待したりと、積極的に交流を図りつながりを深められるように努めている	地域に受け入れられ、行事には利用者だけでなく、職員も準備などに参加協力することで交流を深められている。日常でも職員は積極的に挨拶や声かけを実施し、散歩時には野菜を分けていただくなどのつきあいが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の敬老会や自治会長を通じて、このすCCそよ風存在意義を伝え、いつ何時でも相談にのれることを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に数回市役所職員に参加して頂き情報交換を行っている。また非常災害対策など、具体的な議題について話し合い、助言や意見を頂いている。改善点などはミーティングで話し合い実践している	参加者からは地域の行事の情報やお誘い、保育園の子供たちとのふれあいなど様々な意見・提案や、フードセラピー、避難訓練についての報告が行われ、アドバイスをいただくなど、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービスについて取り組み状況の報告、相談をし、良い関係作りに取り組んでいる	日常の介護保険に関することや空き情報などについて、市担当者や地域包括支援センターとの連携が図られている。運営推進会議にも参加していただいたり、市内の介護事業者の連絡会にも出席するなど、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議時の施設内研修や身体拘束廃止委員会主催での勉強会、グループワークを行い、ケアの徹底を実践している	身体拘束廃止委員会を中心に、言葉による拘束を特に取り上げ、「何気なく使っている言葉は利用者にとって心地良いか」、「周りの人が聴いてどうなのか」など具体的な話し合いが行われ、身体拘束に頼らないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、事例検討会や勉強会を行い、全職員に統一した対応を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は社内研修、勉強会にて統一した知識を身につけ、また成年後見人制度が必要なケースは、管理者、計画作成担当者が対応し支援を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心掛け、不安や疑問がないかお聞きしながら納得頂けるような対応を行っている。料金、緊急時の対応についても説明、同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会、運営推進会議においても意見、要望をもらえる機会を設けている。利用者様、ご家族様から頂いた要望、意見はその都度周知徹底を行い対応を統一する。またコミュニケーションを常にとるような運営を心がけている	ご家族には管理者が極力お会いするよう努められるが、職員には誰でも受け答えができるよう指導と情報の共有に取り組まれている。また、利用者からの意見・要望に応じて、寿司屋での外食や買い物などに出かけられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、個別面談を数か月ごとに行い、職員の意見や現状を聞き取り、質の向上につながる取り組みを行っている	管理者が日頃から職員に声をかけ、モチベーションアップに努めることで、フードセラピーなどで職員からの意見・提案、アイデアが出されている。「行事担当」、「お薬担当」などの委員会があり、職員は其中で責任感と協力関係を養われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援をし、取得後は本人の意向を重視しながら職場環境を整える様に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員、現職員への研修の実施。社内研修への参加機会を設け、希望者には研修に行ってもらい向上心を持てる環境作りに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他事業所との関わりは少なく、営業時や受診時に関わりがあるぐらいとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用にあたる相談があった時には、利用者様に会い、心身の状況、思いを受け取り、利用者様が職員を受け入れられるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの様子、経過を理解し、ご家族様の思いや不安、要望等をゆっくりと聞けるような関係を作るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は可能な限り柔軟な対応をし、場合によっては他事業所のサービスにつなげる対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から人生の先輩であると職員が思い、教えて頂く場面も多く、その姿勢から職員と利用者様の良い関係が築かれている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思い、要望を聞くとともに、日ごろの様子や利用者様の思い、職員の考えを細かく伝えることで支援の方向を一つにしている。また協力し合い支えていく関係を築いていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時は慣れ親しんだ物を持参して頂く事で、落ち着いた生活環境作りに努めている。住んでいた所の名所へ出かけたり、名物を作り思い出を断ち切らない様支援している	地域の祭りなどで昔からの知り合いと交流を深めたり、通っていた店に出かけるなどの支援が行われ、馴染みの関係が継続されるよう取り組まれている。また、馴染みにしていた美容師さんが来所され、髪をセットされる利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活する利用者様同士が良い関係になれるよう、職員が調整役となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたご家族様からの相談には親身に対応し、お気持ちに沿った支援を心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わり、信頼関係を大切に、言葉や表情、行動等から利用者様の思いを組み取り、意向の把握に努めている	利用者個々にソファに座って話を聴いたり、利用者同士の会話をきっかけにして、思いや意向の把握に努められている。また、地元のお寺や行事などを話題にしたり、新聞チラシ広告から関心のあることを推測するなどの取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、利用中でも利用者様、ご家族様から聞き取りを行い、コミュニケーションの中から生活歴や生活状況、暮らし方等、情報把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを理解し、言動や小さな変化を見逃さないよう現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の要望を聞き、課題となることをケアカンファで話し合い、現状に合う介護計画を作成している	「介護援助計画表」を作成するカンファレンスだけでなく、日常の利用者の変化については、「ミニカンファ」を行い、細かな情報を確認し、計画作成担当者はそれらをもとに現状の問題点や今後の目標などを盛り込み、介護計画作りにつなげられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄等の身体状況、その日の様子や言動を個々のファイルに記録している。また記録とともに介護計画の見直しもを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の状況に応じ通院や送迎など、必要な支援には柔軟な対応をしている。グループホーム内の浴槽使用が難しい方は1Fの機械浴槽で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で民生委員との意見交換の場を設けている。防災訓練に消防署、地域の消防団が参加し、安全で豊かな暮らしが出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望する掛かり付け医となっている。ご家族様が対応困難な時には、事業所の協力医療機関の紹介、訪問診療をしてもらうよう支援している	かかりつけ医への受診に際しては、利用者の状態や質問事項を文書にしてお渡しし、返事をいただくことで、適切な情報のやり取りが行われている。医師からの指示は申し送りやミニカンファで全職員に周知されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて施設内看護師に相談し、健康管理、状況に応じた支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員やご家族様と情報交換をしながら、回復状況等、退院支援に結びつけている。また安心して頂ける様職員が見舞いに行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族様と話し合いをし、また掛かり付け医にも相談を行い、状況に応じた支援を行っている。急変時はすぐに対応して頂ける様連携を図っている。職員間で利用者様の情報を共有し、チームでの支援を行っている	「最後までここで」との家族の要望に沿い、医療との連携を図りながら看取りを行われた経験があり、職員への不安の解消にも対応されている。今後、重度化が進むことが予想され、訪問看護の受け入れなどについて、家族の考えや意見を募ることが検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講し、マニュアルを作成することで、職員が適切な応急処置が出来る様に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火訓練を行ったり、消防署や消防団、地域等の合同訓練、夜間の緊急連絡網の通報訓練を定期的に行っている	避難訓練では災害発生時のリーダーを養成することに取り組み、役割を確認し合い、防災委員会でも議論がなされている。地域の消防団の協力が得られ、発電機の使い方や通報の仕方など、職員への周知徹底も図られている。	地域との協力体制が築かれ、質の高い防災対策が確立されています。災害発生時に、全職員が役割分担に基づいた行動ができるよう訓練を重ね、習慣化されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、プライバシーや誇りに気を配り、声掛けや対応を行っている	名前を呼ぶときの声の大きさや強さなどに配慮し、尊敬の気持ちを込めた対応に努められている。個人情報の入ったファイルなどの保管には十分注意が払われ、名前の書かれた背表紙などが外からわからないよう、置き方にも工夫が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて言葉がけをし、意思表示が難しい方には表情で読み取れるように関わっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、1人1人の体調、気持ちに気を配りながら対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望をお聞きし、ご家族様に好みを伺い、利用者様に沿った支援を心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はセレクトで選んで頂いている。またフードセラピー等で職員と利用者様が一緒になって昼食、お菓子作りをしている	季節の食材を取り入れた「美食まつり」や焼き立てパンのフレンチトースト作りなど、食事が楽しくなる様々な企画を取り入れられている。日常の主菜の選択メニューのほか、利用者の好みを大切に、コンビニ弁当を買いに出かけるなどの支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェック表に記録をし、職員が共有して、1人1人の習慣に応じて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、1人1人に応じた見守りや介助を行っている。また就寝前の口腔ケア後、義歯洗浄剤に浸けて清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、1人1人の排泄パターン、習慣等を把握してトイレ誘導を行っている	利用者それぞれの意思とタイミングを伺いながら声をかけ、トイレでの排泄を基本に支援が行われている。また、利用者のプライドや羞恥心への配慮から、「トイレ」という言葉は使わず、「向こうへ行きましょう」とさりげなくお誘いするよう努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くするような食べ物や毎日の食材を工夫し自然排便を促している。また運動への声掛け、ご家族様希望の食材などで個々に便秘予防も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外、毎日、または本人の希望により、16時から入浴している。柚子湯、菖蒲湯等、季節を感じて頂ける様演出している	1対1の個浴で、健康管理にも気を付けながら、2日に1度のペースで入浴していただいている。好みの湯加減、季節湯、同性介助への希望など、対応も行われ、利用者は昔話をしたりしながら、ゆっくりと入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えられるよう配慮している。夜間眠れず寝つけない時には、暖かい飲み物などを一緒に飲み、会話をすることで安心して休める様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は利用者様に手渡しし、きちんと飲めているかの確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を活かした役割を担うことで張り合いを持ち、自信を持って生活が出来る様支援しているまたイベントや外出先を利用者様と一緒に企画することで喜びのある外出機会を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は利用者様1人2人の身体能力を考え、無理無く行ける様、距離の調整をしている。また家族会の機会にご家族様と一緒に出掛けられるよう支援している	全員での外出が難しいが、少人数の散歩や散歩の距離を調整するなどして、多くの利用者が外に出られるよう取り組まれている。また、家族の協力も得ながら、外食や買い物などに出かけるよう支援がなされている。	日常的な外出支援には積極的取り組みられていますが、ご家族から見えにくい面があると想定されることから、利用者が外に出た様子を写真に収め、送られたり、面会時に見ていただくなどの取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の希望に応じて、ご家族様の協力を得て所持したり、使用出来る様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は事務所で話をして頂いている。年賀状などやりとりが出来る支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしているような生活音、雰囲気大切に、安心して生活して頂ける環境作りに努めている。また季節の料理、お菓子作り、特大カレンダー作りを通して季節を感じて頂いている	生活感のある寛いだ雰囲気の空間作りがなされ、利用者と職員は和気あいあいと茶碗拭きなどをされている。通路幅が広く、途中にゆっくりできるスペースが設けられ、みんなの声が聞こえる場所で、横になれるベッドも備え付けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチ、ソファなどで自由に過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様1人1人の思いやこだわりを大事に、好みや愛着のある物を使い、居心地良く過ごせる様工夫している	居室では好きな絵を描いたり、書道をされたりするなど、利用者それぞれの自由な生活が送られている。居室作りには家族の想いを大切にされ、鏡や家族が選んだ寝具などが持ち込まれ、家族の写真も多くの利用者が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせ、手すりや浴室、トイレ、廊下等、環境が適しているか見直し、安全安心の確保を自立への気配りしている		

(別紙4(2))

事業所名:このすケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日:平成 29年 2月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (13)	年間で予定されている訓練に全職員が参加できず、一人ひとりの経験も少ない。	シフト調整をし、全職員が参加をし訓練に参加することで、実際の災害に備える。	訓練に参加し回数を重ねていくことで、何をすべきか、何をすれば良いか自分の役割分担を理解していく。	6ヶ月
2	49 (18)	家族への送付する手紙の基本がなく、なかなか職員一人ひとりが取りかかれぬ。	基本となる物を作り、一人ひとりが取りかかれる時間を作れるようにシフト調整をする。	基本ができたらず見本を作り、職員へ周知していく。周知するとともに話し合い、改善をして見やすく、わかりやすいものを作る。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。